

4/18 台北駐日経済文化代表処札幌分処 町を表敬訪問

台 湾・台北駐日経済文化代表処札幌分処の粘信士処長が、町を表敬訪問しました。台北駐日経済文化代表処は日台の外交推進に取り組んでおり、昨年の台湾地震で町が洞爺湖温泉観光協会、とうや湖温泉旅館組合の連名で支援金を贈ったことを受けて今回の訪問を決めました。

下道町長などと面会した粘処長は「これからも経済や観光で交流を進めたいです」と話していました。



下道町長を表敬訪問した粘処長（左）

4/17 安全な火山学習を西山散策路の補修整備

有 珠山噴火の痕跡が残る西山麓火口散策路の補修整備が行われました。

洞爺湖町建設協会の会員と町職員が合同で行いました。訪れた観光客などが安全に散策を楽しむよう、散策路の枕木や柵のロープの補修、木杭の打ち直しなどを行いました。

天候にも恵まれ補修作業は無事終了し、4月25日に散策路のオープンを迎えることができました。



補修作業をする建設協会会員

5/15 産官学で空き家の現状を確認 洞爺湖ツアー

町 と室蘭工業大学、地域おこし協力隊の産官学連携で空き家の実態を調査する「洞爺湖ツアー」が行われました。

ツアーは空き家の把握と有効活用などを目的に今年度から初めて開催。初回のこの日は、学生に町の地理などを学んでもらうためにバスで町内を巡りながら調査を行いました。

虻田地区の本町では地域おこし協力隊員のガイドで2階建ての空き家を見学し、劣化の状況などを確認しました。



空き家を見学する参加者

4/26 月浦森林自然公園の緑を満喫 春を楽しむ会が開催

新 緑の月浦森林自然公園で「いきいき教室春を楽しむ会」が行われました。約15人が参加し、公園内で自生する野花を探しながら散策しました。

小川沿いにはエゾノリュウキンカが黄色い花を咲かせており、足を止めて見入った参加者の皆さん。他にもカタクリの花や、クマゲラが開けた木の穴など自然ならではの景観を楽しんでいました。



野花を見つけた参加者

6/3・6

工夫して継ぎ合わせ パッチワーク作品展

パッチワーク・チクチクの会が制作した作品の展示会が、役場町民ロビーで行われました。同会では現在7人の会員が活動しており、週に一度全員で集まりながら作品制作に取り組んでいます。

作品展の開催は今回が初めて。今まで作っていた衣服やバッグ、タペストリーなどの力作が並びました。来場者は作品に使われた様々な布や細かい縫い目から、完成までの努力に感心していました。



様々な作品が並んだパッチワーク展

5/23

企業版ふるさと納税で貢献 アイビック食品が寄付金

アイビック食品（牧野克彦代表取締役社長）は町の企業版ふるさと納税制度を活用し、景観美化のため町に100万円を寄付しました。

同社は噴火湾産のホタテを含む道産食材をたれやスープなどに加工して販売しています。感謝贈呈式で牧野社長は「洞爺湖町は大自然があり観光業が活発。まちの活性化につなげてほしいです」と話しました。

寄付金は、温泉街やJ・R洞爺駅の植栽に活用する予定です。



感謝状を受け取る牧野社長（左）

6/10

ゲームを通じて学ぶ 町内中学が避難所運営体験

有珠山噴火を想定した避難所開設体験学習会が虻田中学校、洞爺中学校合同で行われました。

各学校の2年生が洞爺中学校体育館に集まり、洞爺湖有珠山マイスターの講演や段ボールベッドの組立てを体験しました。

また避難所運営ゲーム「Dオはぐ」では、認知症の高齢者やペットを連れた家族など、様々な避難者がいる中でどのように避難所を運営すべきかを考え、発表しました。



Dオはぐを体験する生徒

6/3

自分の思いや意見を発表 令和7年度少年の主張大会

洞爺湖町少年の主張大会が役場防災研修ホールで開催されました。虻田中学校、洞爺中学校からそれぞれ3人が出場しました。

最優秀賞に選ばれたのは、虻田中学校3年生の遠藤花音さん。「本当の多様性を知るために」と題し、あらゆる場面で多様性が叫ばれる現状を踏まえた上で、自分の考えを述べました。

遠藤さんは町の代表として、7月に開催される胆振大会に参加します。



堂々と発表した遠藤さん